



## 主な意見交換

### 今年度の活動全般及び参加・協力者に関する報告

- 今年度は、4月に「春の白鳥観察会」、7月に「ラブリバーinながやま」、10月に「第2回 秋の永山新川まつり」、11月に「永山新川 野鳥観察会」、2月に「エコホテル&冬まつり」と、「川のふるさと交流館 さらら」(以下、「さらら」)を利用した交流行事を計5回開催。
- その他、旭川市内の小学4・5年生を対象に、「さらら」や「川のおもしろ館」、「十勝岳火山砂防情報センター」などをめぐる「川の施設見学会」を実施した。
- NPO主体の取り組みとしては、河川清掃や柳の木の伐採、エコキャンドル作り、水質調査などの他、9月に「石ころアートコンテスト受賞作品展」、10月に「落ち葉でお絵かき作品展」を実施した。
- さらに、「ながやま子どもの水辺」参加・協力者として、計45団体(うち、11の小・中学校及び永山農業高校のクラブ活動等を含む)、個人で9名の申し込みがあった。

### 「平成17年度 川の交流会・子どもワークショップ」の開催報告

- 平成17年12月7日、旭川河川事務所主催、旭川河川環境整備財団企画、本協議会后援による「川の交流会・子どもワークショップ」が「さらら」にて開催された。
- 当日は、旭川市立大町小学校・旭川市立知新小学校・北海道教育大学附属旭川小学校の児童97名・教諭5名が「さらら」に集い、川に関する総合学習の成果を学校毎に発表した後、グループ別に意見交換を行い、交流を深めた。
- 永山新川で野外学習を行った知新小学校の先生からは「活字を追うだけでなく、子ども達自身が五感で川を感じる事が大切。一方、旭川にはそのような川が少ないため、パスを

乗り継いで永山新川まで来た」とのコメントをいただき、市内における川とのふれあい活動の重要性を実感させられた。

### 「北海道「子どもの水辺」再発見プロジェクトワークショップ2005」の参加報告

- 平成17年12月10～11日、帯広市の「北海道エールセンター」で、全道で活動する「子どもの水辺」の参加団体が集うワークショップが開催され、「ながやま子どもの水辺」も上川地区として参加した。
- 初日は、参加者の自己紹介や、「子どもの水辺」での活動に関する意見交換をテーマにしたワークショップを開催。
- 2日目は、「全道の「子どもの水辺協議会」から学ぶ」をテーマに、「真駒内子どもの水辺」「砂川子どもの水辺」「札内川大正水辺楽校」「ながやま子どもの水辺」の活動が紹介された。
- 全道における「子どもの水辺」の登録数は、昨年末現在で32件(全国では221件)。また、石狩川流域の動きとしては、砂川遊水地周辺を活動場所とする「砂川子どもの水辺協議会」が昨年9月に発足した。

### 「あさひばし子どもの水辺協議会」の設立報告

- 去る2月9日、今年度内の登録に向け、常磐公園内の「川のおもしろ館」を拠点とする「あさひばし子どもの水辺」の第1回協議会が開催された。
- 同協議会委員には、北海道教育大学名誉教授の山形座長のほか、羽山・桑原・富所・清水・谷地元氏など「ながやま子どもの水辺協議会」のメンバーも加わり、旭川市街中心部という地域特性を生かした、都市型の水辺づくりをめざしている。
- さらに今後は、「ながやま子どもの水辺協議会」

とも情報交換を図りつつ、今後新たに発足する協議会とも連携し、「あさひかわ子どもの水辺」としてネットワークを広げていきたい。

### 来年度の運営・活動案についての意見交換

- 「NPO法人 水と緑のふるさと永山を育てる会」では、「親子を対象に、“水”にこだわったプログラム作りを」をテーマに、来年度の活動を計画している。これは全てNPOが行うということではなく、河川については河川事務所が、地域についてはNPOが担当するなど、得意分野を生かした活動を進めていきたい。
- 具体的な取り組みとしては、田植え体験や野菜作りの他、イカダづくりにも挑戦してみたい。また、凧作りのイベントの参加者に、後日の凧揚げ大会にも参加してもらうなど、個々のイベントを関連づけて実施した方が、より多くの人に参加してもらえるのではないかと。
- イベント時のみならず、夏の間、子どもが恒常的に水辺とふれあえる環境づくりが大事。現在、旭川大学の学生にボランティアの協力を仰ぐとともに、そういった学生に単位を与えるような仕組みづくりを大学側と相談しているところ。
- 「さらら」と永山新川を結ぶ階段が新設されたのを機に、その付近の水辺に砂利を敷き、野鳥の観察場を設けてみてはどうか?
- 現在、「さらら」対岸上流部のわき水を、水止め工付近を経由して、「さらら」側の河川敷に引き込み、きれいな水たまりを作ろうとの検討を行っている最中である。
- この冬は、例年より早めに白鳥が飛来したが(2月20日に初飛来)、白鳥が生息する一帯の水辺はよどみ、汚泥化する傾向にある。その改善策として、今後は、植物等で水辺を浄化する方法等についても学んでいく必要がある。
- 「水鳥にも人間にも快適で、水質も良い水辺」というのは少し無理があるかもしれない。少し遠いが、上流部(自然体験学習ゾーン)は幾分水がきれいなので、そこにも目を向けた取り組みも検討してはどうか。
- 今年度は、協議会発足1年目だが、協議会の役割や在り方など、とても良い形で機能していったと思う。また、「NPO法人 水と緑のふるさと永山を育てる会」に大変ご尽力いただき、「さらら」を拠点に、活発な活動が展開できた。引き続き、来年度の協議会でも、いろいろな意見をお聞かせ願いたい。



来年度の活動の抱負について語る「NPO法人 水と緑のふるさと永山を育てる会」の佐藤事務局長



「わき水を利用したきれいな水辺づくりを検討している」と語る旭川河川事務所計画課の森原課長



「旭川大学との連携を図った水辺活動にも取り組んでいきたい」と語る(財)旭川河川環境整備財団の富所専務理事



「親子がともに楽しめる水辺環境づくりを推進していきたい」と、旭川開発建設部 治水課の羽山課長補佐

